

『伊勢物語』「筒井筒」(23段)

1、はじめに

・作者…未詳

・成立…平安時代〔平安時代は794～1185年ごろ〕

・ジャンル…歌物語

・特徴…歌とそれに基づいた話を交えて書かれる歌物語。全125段からなる。多くの段で「むかし、男」の冒頭句からはじまる。その男は、実在したあじわりのなりひら在原業平がモデルではないかといわれている。

・要約

幼少からの知り合いの男女は、大人になり、和歌のやりとりを経て結婚した。

そうして何年か経って、女の親は死に生活が苦しくなったので、男は他所に女を作り、出ていこうとしたのを、もとの女は嫌な顔をせず見送った。男は女の浮気心を疑い、出ていくふりをして、植え込みに隠れて見ていると、女は和歌を詠み、それを聞いた男は出ていくことをやめた。

2. 1、本文

昔、田舎わたらひしける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、おとなになりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつ、親のあはすれども、聞かでなむありける。

さて、この隣の男のもとより、かくなむ、

筒井つの(筒井筒) 井筒にかけしまろがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女、返し、

くらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上べへま

なご言ひ言ひて、ついに本意のいとくおひにけり。

2

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるまに、せむとまにうかひなへてあらむやはとて、河内の国、高安の郡に、行き通ふ所出で来にけり。さりければ、この女の女、悪しと思入る気色もなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるとやめりむと思ひ疑ひて、前裁の中に隠れぬて、河内へ往ぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧にて、うちながめて、

風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、かぎりなくなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

昔、田舎わたらひ※1しける人の子ども、井のもとに出でて遊びけるを、おとなになりければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思ひつつ、親のあはすれ☆1ども、聞かでなむありける☆2。

さて、この隣の男のもとより、かくなむ☆3、

筒井つの（筒井筒）※2井筒※3にかけしまるがたけ過ぎにけらしな妹☆4見ざるまに女、返し、

くちへくちへ振り分け髪※4も肩過ぎぬ君ならずしてたれか上ぐあへき☆7

な言ひ言ひついで、ついで本意のいへぬ☆8にけり。

3

さて、年ごろ経るほどに、女、親なく、頼りなくなるまに、せうともにつかひなくへあらむ※5やは☆9とて、河内の国、高安の郡※6に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、このもとの女、悪しと思入る気色☆10もなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるとやあらむ☆11と思ひ疑ひて、前裁☆12の中に隠れゐて、河内へ往ぬる顔※7にて見れば、この女、いとよう化粧けなうじて、うちながめて、

風吹けば沖つ☆13白波たつた山※8夜半☆14にや君がひとり越ゆらむ

と詠みけるを聞きて、かぎりなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

3、補足・注／重要単語・文法

【補足・注】

※1 田舎わたらひ…田舎を移動して生計を立てる

る経済力や地位、後見はなく、この女と一緒にいても生活に困り、自分も女もどうしようもなくなってしまうと考えた。

※2 筒井つの…筒井(井戸)の。「つ」は未詳。

※6 河内の国、高安の郡…現在の大阪府八尾市の地域。

※3 井筒…(井戸の)囲い。

尾市の地域。

※4 振り分け髪…子供の髪型。p17参考。

※7 往ぬる顔…行ってしまったふり。行った素振り。

※5 もろとも…いふかひなくてあらむ…

た素振り。

当時は「通い婚」で、男が女の家に通う形式。

※8 たつた山…現在の奈良県西北部と大阪府南部の境にある山。大和の国と河内の国をつなぐ道。「たつ」は「立つ」と「竜」の

その際、男の食事や着物は女の家が世話。また、このころは家柄や親の有無・役職も重要。

掛詞。

要。だから親のいない女には、男の面倒をみる。

終助詞「な」

【重要単語・文法】

☆1 あはすれ…「あはす」。結婚させる。

☆4 けらしな…過去推量「けらし」+詠嘆の

☆2 ける…係り結びの結びの語。

終助詞「な」

☆3 かくなむ…結びの省略。「言ひおこせたる」など。

☆5 妹…愛しいあなた(女性)を表す

る」など。

☆6 こし…「来し」。p17参考。

☆7へき…係り結びの結びの語。

☆11あらむ…係り結びの結びの語。

☆8あひ…結婚する。

☆12前裁…「せんぞう」。植え込み。

☆9やは…反語で訳出。文中の場合は係助

☆13つ…上代(奈良時代以前)の格助詞。

詞で係り結び。文末では終助詞とする立場

連体格用法の「」で訳す。

もある。

☆14らむ…係り結びの結びの語。

☆10気色…様子。

#### 4、現代語訳

昔、田舎を移動して生計を立てていた人の子ども(二人)が、井戸の周りに出て遊んでいたが、大人になったので、男も女も恥ずかしがっていたけれど、男はこの女を(妻として)得ようと思う。女はこの男を(夫にしたい)と思いながら、親が(ほかの男と)結婚させようとするけれど、聞かないでいた。

さて(そうして)、川の隣の男のもとから、川のよりに(和歌がよめられた)

井戸(筒井)の囲い(井筒)と比べていた私の背丈も(囲いの高さを)すぎてしまったのですね。愛しいあなたを見ない(＝あなたと会わないでいるうち)間」。聞」。

女の返しは、

(あなたと長さを(比べてきた振り分け髪も肩を過ぎてしまった、あなた)のため)ではなくて誰(のため)にこの髪を結い(上げる)でしょうか、いやあなたしかいません。

など言いつ合して、よろやくかねてかひの願いのよろに結婚した。

そうして、何年か経つと、女は、親が亡くなり、生活のよひどころがなくなるにつれて(＝生活が苦しくなる)につれて、男は(二人とも)どうしようもなくなっていられたようか、いや、いられないと思って、河内の国の高安(現在の大阪府八尾市の地域)に、行き通う(女)の所ができた。しかし、このもとの女は、気に食わないと思っっている様子もなく、(男を)見送ったので、男は、(女に)浮気心があったこのよつな(様子)なのであるうかと思ひ疑って、植え込みの中に隠れて座り、河内へ行ったような素振り(＝行ったぶり

をして（見ると、この女は、とても急入りに化粧をして、外をぼんやり眺めて

風が吹くと沖の白波が立つ、その「立つ」というわけではないが、「たつ」という名を

持つ竜田山を夜中にあなたが一人で越えているのでしょうか。

と詠んだのを（男は）聞いて、この上なくいとおしく思っ、河内へも行かなくなってしまっ  
た。

5. 1、本文と現代語

昔、田舎を移動して生計を立てていた人の子ども(二人)が、井戸の周りに出て遊んでいたが、大人になつた

昔、**田舎**わたらひしける人の子ども、**井**のもよこに出でて遊びけるを、おとなになりたけられたい)と思ひ

ながら、親が(ほかの男と)結婚させようとするけれど、聞かないでいた。**ば、男も女も恥ぢか**はしてありけれど、**男はこの女をこそ得めと願ふ**。女はこの男をと思

ひつひ、**親のあはすれども、聞か**でなむあひける。

そつて(そつて)この隣の男のもつから、このやうに(和歌がよこされた)

**わつ、この隣の男のもよよひ、かく**なむ。

井戸(筒井)の囲い(井筒)と比べていた私の背丈も(囲いの高さを)すぎてしまったのですね。愛しいあなたを見ない(＝あなたと会わないでいるうちに)間に。

**筒井つ**の**筒井筒**井筒にかけしまるがたけ過ぎにけらしな妹見ざるまに

女の返しは、

**女、返つ、**

(あなたと長さを)比べてきた振り分け髪も肩を過ぎてしまった、あなた(のため)ではなくて誰(のため)にこの髪を結い(上げる)でしようか、いやあなたしかいません。

**へんぶんこ振り分け髪も肩過ぎぬ昔なひつたれか上げん**

な言ひ合つて、ようやくかねてからの願ひのよつに結婚した。

**な言ひ合つて、ようやくかねてからの願ひのよつに結婚した。**

そつして、何年か経つころに、女は、親が亡くなり、生活のよりどころがなくなつて(＝生活が苦しくなるにつれて)(男は)二人ともがともしようもなくなつて

**わつ、年経る男も女、親なく、頼りなくなる男も女、せむしなひなへて**



いられようか、いや、いられないと思って、河内の国の高安（現在の大阪府八尾市の地域）に、行き通う（女の）所ができた。しかし、このもと

**あむむむやほとと、河内の国、高安の都に、行き通ふ所出で来にけり。さりければ、このもと**  
の女は、気に食わないと思っっている様子もなくて、（男を）見送ったので、男は、（女に）浮気心があつてこのような（様子なの）であらうか

**の女、悪しと思へる気色もなくて、出だしやりければ、男、異心ありてかかるとやあむむ**  
と思ひ疑つて、植え込みの中に隠れて座り、河内へ行ったような素振りです（＝行ったふりをして）見ると、この女は、とても念入りに化粧をし

**と思ひ疑ひて、前裁の中に隠れぬて、河内へ往ぬる顔にて見れば、この女、いとよう化粧じ**  
て、外をぼんやり眺めて

**て、つちながめて、**

風が吹くと沖の白波が立つ、その「立つ」というわけではないが、「たつ」という名を持つ竜田山を夜中にあなたが一人で越えているのでしょうか。

**風吹けば沖つ白波たつた山夜半にや君がひとり越ゆるむ**

と詠んだのを（男は）聞いて、この上なくいとおしく思つて、河内へも行かなくなりました。

**と詠みけるを聞きて、かぎりなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。**

## 5. 2、本文と現代語訳

昔、田舎を移動して生計を立てていた人の子ども(一人)が、井戸の周りに出て遊んでいたが、大人になつたので、男も女も恥ずかしがっていたけれど、男はこの女を(妻として)得ようと思う。女はこの男を(夫にした)

ければ、男も女も恥ぢかはしてありけれど、男はこの女をこそ得めと思ふ。女はこの男をと思しながら、親が(ほかの男と)結婚させようとすするけれど、聞かないでいた。

と思ひつゝ、親のあはすれ<sup>☆1</sup>ども、聞かでないありける<sup>☆2</sup>。

そつて(そつて)この隣の男のもとから、このよつに(和歌がよこされた)

わつて、この隣の男のもともより、かくなむ<sup>☆3</sup>。

井戸(筒井)の囲い(井筒)と比べていた私の背丈も(囲いの高さを)すぎてしまったのですね。愛しいあなたを見ない(＝あなたと会わないでいるうちに)間に。

筒井つの(筒井筒)<sup>※2</sup>井筒<sup>※3</sup>にかけしまるがたけ過ぎにけらしな妹<sup>☆4</sup>見ざるまに

女の返しは、

女、返つ、

(あなたと長さを)比べてきた振り分け髪も肩を過ぎてしまった、あなた(のため)ではなくて誰(のために)この髪を結い(上げる)でしょうか、いやあなたしかいません。

へんげつ<sup>☆</sup>。振り分け髪<sup>※4</sup>も肩過ぎ<sup>※5</sup>してたれか上へ<sup>☆</sup>まき<sup>☆</sup>。

なま言ひ合つて、ようやくかねてからの願ひのように結婚した。

なま言ひ合つて、ようやくかねてからの願ひのように結婚した。

そつして、何年か経つころに、女は、親が亡くなり、生活のよりどころがなくなつて(＝生活が苦しくなるにつれて)(男は)二人ともがともにつつしようもなくなつて

わつて、年いふ終るまふ<sup>☆</sup>、女、親なく、頼りなくなるまふ<sup>☆</sup>、せむしとつたかかひなへて

いられようか、いや、いられないと思って、河内の国の高安（現在の大阪府八尾市の地域）に、行き通う（女の）所ができた。しかし、

あつむむ<sup>※5</sup>ややは<sup>☆6</sup>とて、河内の国、高安の都<sup>※6</sup>に、行き通ふ所出で来にけり。さりけれど、  
このもとの女は、気に食わないと思っっている様子もなくて、（男を）見送ったので、男は、（女に）浮気心があつこの

このもとの女、悪<sup>あ</sup>しと思へる気色<sup>けしき</sup>もなくて、出だしやりければ、男、異心<sup>いしん</sup>ありてかか  
ような（様子なの）であらうかと思ひ疑つて、植え込みの中に隠れて座り、河内へ行ったような素振りであつたふりをして（見ると、

るにやあつむむ<sup>☆11</sup>と思ひ疑ひて、前裁<sup>せんさい</sup>の中に隠れゐて、河内へ往ぬる顔<sup>※7</sup>にて見れば、  
この女は、とても念入りに化粧をして、外をほんやり眺めて

この女、つとよう化粧<sup>けしょう</sup>じて、うちながめ、

風が吹くと沖の白波が立つ、その「立つ」というわけではないが、「たつ」という名を持つ竜田山を夜中にあなたが一人で越えているのでしょうか。

風吹けば沖つ<sup>☆13</sup>白波たつた山<sup>※8</sup>夜半<sup>よは</sup>にや君がひとり越ゆらむ<sup>☆14</sup>

と詠んだのを（男は）聞いて、この上なくいとおしく思つて、河内へも行かなくなりました。

と詠みけるを聞きて、かぎりなくかなしと思ひて、河内へも行かずなりにけり。

6、品詞分解

単語	品詞等
昔、	名詞
田舎わたらひ	名詞
し	動詞・サ変・連用形
ける	助動詞・過去・連体形
人	名詞
の	格助詞
子ども、	名詞
井	名詞
の	格助詞
もと	名詞
に	格助詞
出で	動詞・下二段・連用形
て	接続助詞
遊び	動詞・四段・連用形
ける	助動詞・過去・連体形
を、	格助詞
おとな	名詞
に	格助詞

なり	動詞・四段・連用形
に	助動詞・完了・連用形
けれ	助動詞・過去・已然形
ば、	接続助詞
男	名詞
も	格助詞
女	名詞
も	格助詞
恥ぢかはし	動詞・四段・連用形
て	接続助詞
あり	動詞・ラ変・連用形
けれ	助動詞・過去・已然形
ど、	接続助詞
男	名詞
は	係助詞
こ	代名詞
の	格助詞
女	名詞
を	格助詞
こそ	係助詞（係）

得	動詞・下二段・未然形
め	助動詞・意志・已然形（結）
と	格助詞
思ふ。	動詞・四段・終止形
女	名詞
は	係助詞
こ	代名詞
の	格助詞
男	名詞
を	格助詞
と	格助詞
思ひ	動詞・四段・連用形
つつ、	接続助詞
親	名詞
の	格助詞
あはすれ	動詞・下二段・已然形
ども、	接続助詞
聞か	動詞・四段・未然形
で	接続助詞
なむ	（係）

あり	動詞・ラ変・連用形
ける。	助動詞・過去・連体形（結）
さて、	接続詞
こ	代名詞
の	格助詞
隣	名詞
の	格助詞
男	名詞
の	格助詞
もと	名詞
より、	格助詞
かく	副詞
なむ、	係助詞
筒井	名詞
つ	未詳。「筒井つの」が「筒井筒」と記述されているものもある
の	格助詞
井筒	名詞
に	格助詞
かけ	動詞・下二段・連用形
し	助動詞・過去・連体形

まろ	代名詞
が	格助詞
たけ	名詞
過ぎ	動詞・下二段・連用形
に	助動詞・完了・連用形
けらし	助動詞・過去推量・終止形
な	終助詞・詠嘆
妹	代名詞
見	動詞・上一段・未然形
ざる	助動詞・打消・連体形
ま	名詞
に	格助詞
女、	名詞
返し、	名詞
くらべ	動詞・下二段・連用形
こ	動詞・カ変・未然形
し	助動詞・過去・連体形※カ変（とサ変）につく場合未然形につく
振り分け髪	名詞
も	係助詞
肩	名詞

過ぎ	動詞・上二段・連用形
ぬ	助動詞・完了・終止形
君	名詞
なら	助動詞・断定・未然形
ず	助動詞・打消・連用形
して	接続助詞
たれ	代名詞
か	係助詞・反語（係）
上ぐ	動詞・下二段・終止形
べき	助動詞・意志・連体形（結）
など	副助詞
言ひ	動詞・四段・連用形
言ひ	動詞・四段・連用形
て、	接続助詞
ついに	副詞
本意	名詞
の	格助詞
ごとく	助動詞・比況・連用形
あひ	動詞・四段・連用形
に	助動詞・完了・連用形

けり。	助動詞・過去・終止形
さて、	接続詞
年ごろ	名詞
経る	動詞・下二段・連体形
ほど	名詞
に、	格助詞
女、	名詞
親	名詞
なく、	形容詞・ク・連用形
頼り	名詞
なく	形容詞・ク・連用形
なる	動詞・四段・連体形
まま	名詞
に、	格助詞
もろともに	副詞
いふかひなく	形容詞・ク・連用形
て	接続助詞
あら	動詞・ラ変・未然形
む	助動詞・推量・終止形
やは	係助詞（反語）

と	格助詞
て、	接続助詞
河内	名詞
の	格助詞
国、	名詞
高安	名詞
の	格助詞
都	名詞
に、	格助詞
行き通う	動詞・四段・連体形
所	名詞
出で来	動詞・カ変・連用形
に	助動詞・完了・連用形
けり。	助動詞・過去・終止形
さりけれど、	接続詞
こ	代名詞
の	格助詞
もと	名詞
の	格助詞
女、	名詞

悪し	形容詞・シク・終止形
と	格助詞
思へ	動詞・四段・已然形
る	助動詞・完了・連体形
気色	名詞
も	係助詞
なく	形容詞・ク・連用形
て、	接続助詞
出だしやり	動詞・四段・連用形
けれ	助動詞・過去・已然形
ば、	接続助詞
男、	名詞
異心	名詞
あり	動詞・ラ変・連用形
て	接続助詞
かかる	連体詞※下に名詞「よう」が省略されていると考えられる
に	助動詞・断定・連用形
や	係助詞・疑問（係）
あら	動詞・ラ変・未然形
む	助動詞・推量・連体形（結）

と	格助詞
思ひ疑ひ	動詞・四段・連用形
て、	接続助詞
前栽	名詞
の	格助詞
中	名詞
に	格助詞
隠れみ	動詞・上一段・連用形
て、	接続助詞
河内	名詞
へ	格助詞
往ぬる	動詞・ナ変・連体形
顔	名詞
にて	格助詞
見れ	動詞・上一段・已然形
ば、	接続助詞
こ	代名詞
の	格助詞
女、	名詞
いと	副詞

よう	形容詞・ク・連用形（ウ音便）
化粧じ	動詞・サ変・連用形
て、	接続助詞
うちながめ	動詞・下二段・連用形
て、	接続助詞
風	名詞
吹け	動詞・四段・已然形
ば	接続助詞
沖	名詞
つ	格助詞
白波	名詞
たつた山	名詞
夜半	名詞
に	格助詞
や	係助詞（係）
君	代名詞
が	格助詞
ひとり	名詞
越ゆ	動詞・下二段・終止形
らむ	助動詞・現在推量・連体形（結）

と	格助詞
詠み	動詞・四段・連用形
ける	助動詞・過去・連体形
を	格助詞
聞き	動詞・四段・連用形
て、	接続助詞
かぎりなく	形容詞・ク・連用形
かなし	形容詞・シク・終止形
と	格助詞
思ひ	動詞・四段・連用形
て、	接続助詞
河内	名詞
へ	格助詞
も	係助詞
行か	動詞・四段・未然形
ず	助動詞・打消・連用形
なり	動詞・四段・連用形
に	助動詞・完了・連用形
けり。	助動詞・過去・終止形

7、和歌について

## 筒井つの（筒井筒）井筒にかけしまろがたけ

過ぎにけらしな／妹見ざるまに

【解釈】

井戸（筒井）の囲い（井筒）と比べていた私の背丈も（囲いの高さを）すましてしまったので  
すね。愛しいあなたを見ない（＝あなたと会わないでいるうちだ）間じ。

【修辞法】

○四句切れ

○倒置法…五句目とそれ以前

【語・文法】

○筒井…筒状の井戸。

○井筒…井戸の囲いの枠。

○かく…はかりくくひる。

○にけらしな…完了の助動詞「ぬ」連用形＋過去推量「けらし」＋詠嘆の終助詞「な」。

※「けらして」は過去の助動詞「けり」連体形＋推定の助動詞「らして」の「けらして」が変化  
した語といわれる。

○妹…愛しいあなた。



くつらべこし振り分け髪も肩過ぎぬ／

君ならずしてたれか上ぐべき

【解釈】

(あなたと長さを)比へてきた振り分け髪も肩を過ぎてしまった、あなた(のため)ではな  
くて誰(のため)にこの髪を結い(上げる)でしょうか、いやあなたしかいません。

【修辞法】

○三句切れ

○係り結び…「かぐべき」。トナリは反語。

【語・文法】

○こし…「来し」のこと。通常、過去の助動詞「き」は連用形につくが、力変とサ変には未  
然形につくことが多い。ここでは未然形につき「し」と読む。「来し」を「まし」と読む  
のは「来し方」のとき。

○振り分け髪…童男、童女の髪型。頭頂部から髪を左右に分けて垂らし、肩のあたりで切り  
そろえる。尼削ぎともいう。そして女性は13歳から16歳ごろに成人の儀として、垂らし  
ていた前髪を結びあげる「髪上」をする。それが五句の「上ぐべ」。

○君ならずしてたれか…「あなたのためではなく、だれのために」の意。

## 風吹けば沖つ白波たつた山

### 夜半にや君がひとり越ゆらむ

#### 【解釈】

風が吹くと沖の白波が立つ、その「立つ」というわけではないが、「たつ」という名を持つ竜田山を夜中にあなたが一人で越えているのでしょうか。

#### 【修辭法】

○掛詞…「たつ」が、波が「立つ」と「竜田山をかける」。

○序詞…「風吹けば沖つ白波」が「たつ」を導く序詞。

※序詞がどこまでか判断する方法の一つとして、「掛詞の直前まで」という方法がある。ただし、掛詞があるからといって必ずその直前が序詞になるわけではない。

○歌枕…「竜田山」は現在の奈良県西北部と大阪府南部の境にある山。大和の国と河内の国をつなぐ道。「竜田」の「田」は、よく和歌に詠まれる有名な地名を歌枕という。

○係り結び…「や〜らむ」。「たつ」は疑問。

#### 【語・文法】

○吹けば…已然形＋「ば」。順接確定条件。

○つ…上代（奈良時代以前）の格助詞。「つ」と訳す。

○「らむ」…現在推量。係り結びの結びの語なので連体形。